

檜葉町駐在現地確認概要(平成29年11月27日～12月1日)

確認日	確認目的	確認箇所	確認状況	プラント関連 パラメータ
11月27日	3号機使用済燃料プール循環冷却設備一次系ポンプ(B)停止に係る状況確認		○11月27日、9時41分、3号機使用済燃料プール循環冷却一次系ポンプ(B)が停止し、3号機使用済燃料プールへの冷却が停止したことから、免震重要棟内にて情報収集した。 運転班からの情報によると、ポンプ停止の原因は、何らかの要因で系統隔離弁の“閉”信号が発信され、ポンプが自動停止したものと推定された。その後、当該弁及び系統に異常のないことを確認し、11時34分に系統を再起動し、冷却が再開されたことを確認した。	11時40分現在
	有床救護所建物解体工事の状況確認	有床救護所	○有床救護所の建物解体工事が開始されたことから、現況を確認した。 東京電力の担当者によると、11月14日より建物内装の撤去作業を開始しており、来年1月中に建物の解体が終了する予定とのことであった。 現場確認時、建物の外壁は、足場が組まれ、シートで養生されていた。また、建物の内部は、残置物や内装の撤去が進んでおり、比較的整然としていた。 解体工事に伴い発生した廃棄物は、建物玄関前のコンテナ等に収納されており、廃棄物が飛散・流出等している様子は確認されなかった。	
11月28日	覆土式一時保管施設エリアLの状況確認	覆土式一時保管施設エリアL	○覆土式一時保管施設エリアLの現況について、現場確認した。 当該エリアは、1～30mSv/hの高線量のガレキ類を保管する施設であり、ガレキ類は遮水シートで覆われ、さらに覆土されていた。現場確認時、覆土式保管施設第1～4槽のうち第3槽まで廃棄物の受入が終了しており、第4槽については、受入の準備は整っているものの運用はされていない。 現場で目視した限り、廃棄物が飛散・流出等している様子は確認されなかった。	11時55分現在
11月29日	サブドレン増設サンプルタンク等の設置状況確認	サブドレン増設サンプルタンク サブドレン既設サンプルタンク	○12月に供用開始が予定されていたサブドレン増設サンプルタンクの設置状況及び既設サンプルタンクの現況について、現場確認した。 サブドレン増設サンプルタンクの配管敷設工事は、一部の配管の保温材施工を残して完了していた。堰は、外壁、内壁及び床面とも被覆が終了していた。 現場にいた東京電力の担当者によると、増設サンプルタンクの供用時期は現時点で未定とのことであった。一方、既設サンプルタンク廻りでは、受入ライン、排水ライン及び循環ラインを二系列化する工事が行われていた。	10時10分現在
	緊急時演習の実施状況確認	新事務本館緊急対策室 免震重要棟	11月29日、防災訓練が実施されたことから、その状況を確認した。 訓練は、地震発生に伴い、原子炉注水の停止、使用済燃料プールの冷却停止などが発生したことを想定して行われた。大きな問題点はなかったものの、免震重要棟緊急対策本部の入口の体表面モニタゲートを通するのにかかる時間がかかるなど、改善すべき点も見受けられた。	
11月30日	3号機原子炉建屋燃料取り出し用カバーの設置状況の確認	3号原子炉建屋屋上	○11月11日に燃料取扱機、11月20日にクレーンが3号機原子炉建屋屋上に設置されたことから、3号機原子炉建屋屋上にて設置状況を確認した。 燃料取扱機及びクレーンは、ビニールで養生されたまま、ドーム屋根の中に設置されていた。 3号機原子炉建屋の燃料取り出しに向け、カバーの設置工事が計画どおり進んでいることを確認した。	11時56分現在
12月1日	3号機復水器貯留水移送作業の漏えい対策状況の確認	3号タービン建屋	○3号機復水器ホットウェル天板下部貯留水移送作業のための配管の敷設が終了していることから、移送開始前に、漏えい防止対策について確認した。 タービン建屋2階に設置された仮設移送ヘッダー周辺を確認したところ、ホース接続部の漏えい防止対策としてヘッダー下部に受けパンが設置されていた。貯留水の移送ホースについては、外側に青いホースを被せて二重化されていた。また、「低線量待機・移送監視エリア」と表示された遮蔽エリアがあり、作業員が移送状況をモニターで遠隔監視していた。 貯留水の移送作業時の漏えい防止対策が実施されていることを確認した。	11時37分現在

※プラント状況については、プラント関連パラメータをご参照ください。